

# 未来社会 アート と ついで

美術館を考え続けるプロジェクト#02 | ミュージアム・サロン09

い  
て

淀川テクニック

柴田英昭

(アーティスト)

×

赤井あずみ

(鳥取県立博物館学芸員)

2019.07.20 [土] 19:00-21:00 智頭宿 楽之 (八頭郡智頭町智頭484)

参加費 | 無料※ワンドリンク制 主催・問合先 | 鳥取県立博物館 美術振興課 美術担当



淀川テクニック「宇野のチヌ」2010, 岡山県玉野市  
courtesy:the artist and yukari art

ゲスト・プロフィール | 柴田英昭(しばた・ひであき)

1976年岡山県生まれ。2003年に大阪・淀川の河川敷を拠点として「淀川テクニック」のアーティスト名で活動開始。ゴミや漂流物などを使い、様々な造形物を制作する。赴いた土地ならではのゴミや人々との交流を楽しみながら行う滞在制作を得意とし、岡山県・宇野港には「宇野のチヌ」「宇野の子チヌ」が常設されている。また、東日本大震災で甚大な被害を受けた仙台市若林区では、地元の方々の協力のもと被災した防風林を使った作品を制作。その他、「釜山ビエンナーレ」(2006)や「KITA!!」(2008、インドネシア)、「TWINISM」(2009、ドイツ・大阪)、「呼吸する環礁ーモルディブ・日本現代美術展ー」(2012、モルディブ)など海外での展覧会参加も多い。2018年には、世界中のゴミを求めて旅をし、目撃した現状を作品という形で伝える「ゴミハンタープロジェクト」を新たにスタートし、ゴミ問題をより広く考えるきっかけをつくることを試みている。

昭和47年の開館以来、鳥取県立博物館は地域の歴史文化の継承・発展の拠点として、またその普及を通じた社会教育施設として活動を続けてきました。47年を経たいま、施設の老朽化・収蔵スペースの狭隘化、時代の変化によるニーズの多様化など直面するさまざまな課題を解決するために、県立美術館の整備を進めています。この新しい美術館は、これまでの博物館での遺産を受け継ぎつつ、より充実した環境で活動を展開させることで、人口減少時代の鳥取県の地域再生拠点として、その未来の姿を描こうとしています。開館準備の期間中、そのビジョンを多くの県民の方々と共有し、意見交換を重ねることで、よりよい内容にして行きたいと考えております。

そこで、県内各地で活動される方々をゲストに、お迎えし、地域における文化活動やそのあり方、そして未来の美術館について考え、語り合うトークイベント「ミュージアム・サロン」を開催します。今回のゲストは、智頭町に2013年に移住し、鳥取を拠点としながら国内外の美術館や芸術祭で活躍されるアーティストの柴田英昭(しばた・ひであき)さんです。柴田さんのこれまでの活動とそのバックボーンについてお話を伺いながら、参加者の方々と一緒にアートと社会と未来について考え、意見交換する場にしたいと思います。

ぜひお気軽にお集まりください。